

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	放送芸術学院専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養 専門課程	映像・舞台テクノロジー科（昼間Ⅱ部）	夜・通信	420 時間	320 時間	
	俳優本科（昼間Ⅰ部）	夜・通信	420 時間	240 時間	
	デジタルメディア科（昼間Ⅰ部）	夜・通信	480 時間	240 時間	
	デジタルメディア科（昼間Ⅱ部）	夜・通信	480 時間	240 時間	
	メディアクリエイト科（昼間Ⅰ部）	夜・通信	240 時間	160 時間	
	メディアクリエイト科（昼間Ⅱ部）	夜・通信	240 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/2_jitsumu_2025.pdf にて公表
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	放送芸術学院専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本校ホームページ https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/3_riji_2025.pdf にて公表
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	別学校法人 理事 (H17. 4. 1～)	R6. 6. 1～R11 年度 の定時評議員会の 終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	団体役員 (H28. 4. 1～)	R1. 5. 27～R11 年度 の定時評議員会の 終結の時	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	放送芸術学院専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。</p>	
授業計画書の公表方法	(https://www.bac.ac.jp/school/public_info/index.html)にて公表
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 全学科、A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。 出席評価、授業態度評価(座学・実技での取り組み態度)、筆記試験、実技試験、レポートをシラバスに定める評価方法にて評価する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。評価基準は下記の通り</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点 : S(4.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点 : A(3.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点 : B(2.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点 : C(1.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 : F(0.0) 不合格</p> <p>上記の指標を学生便覧にて学生に公表。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/2_gpa_2025.pdf にて公表</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。</p> <p>卒業・進級の判定基準は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各年次 900 時間以上を修得した者は、進級することができる 2. 各年次 900 時間以上を修得し、最高学年において卒業認定された者は卒業することができる。 3. 上記 1 及び 2 に該当する者は卒業・進級判定会議により最終決定する。 <p>上記を満たさない者は、原級留め置き（留年）または卒業保留となる。</p> <p>卒業に必要な単位を修得している場合であっても、学費が完納されていない場合は卒業認定されない。</p> <p>・卒業年度の 3 月 31 日を超え、卒業単位未修得による卒業保留の場合、同年 4 月 1 日からの次年度において、8 月 31 日までに卒業認定されない場合は、入学年の 3 月 31 日付で除籍となる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>(https://www.bac.ac.jp/school/public_info/index.htm <u>1</u>) にて公表</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	放送芸術学院専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/8_finance_2024.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/8_finance_2024.pdf
財産目録	https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/8_finance_2024.pdf
事業報告書	https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/8_jigyou_2024.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/8_finance_2024.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	映像・舞台テクノロ ジー科（昼間Ⅱ部）		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,600 時間	1,200 時間	7,080 時間	単時間/ 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
	8,280 時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		65人	0人	8人	107人	115人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法 （概要） 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点：S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点：A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点：B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点：C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点：F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準

(概要) 全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
(概要) 本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	4人 (57.1%)	3人 (42.9%)
(主な就職、業界等) 映像制作会社・イベント制作会社・TV番組制作会社			
(就職指導内容) 担任制度による個別面談、キャリアセンタースタッフによる進路カウンセリングや履歴書対策指導・面接/GD対策・学内合同企業説明会の実施開催等			
(主な学修成果(資格・検定等)) MOS検定・JESCコミュニケーションスキルアップ検定等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57人	3人	5.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	俳優本科 (昼間 I 部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 時間	240 時間	4,260 時間	単位時 間/単 位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			4,500 時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	47人	0人	8人	107人	115人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表
成績評価の基準・方法
(概要) 既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位4分の1の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点 : S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点 : A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点 : B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点 : C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点 : F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準
(概要) 全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
(概要) 本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) タレントプロダクション・テーマパーク			
(就職指導内容) 担任制度による個別面談、デビューセンタースタッフによる進路カウンセリングやプロフィール作成、オーディション対策指導・学内合同企業説明会/ADの実施開催等			

(主な学修成果(資格・検定等)) J E S C コミュニケーションスキルアップ検定等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	5 人	11.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	デジタルメディア科 (昼間I部)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 時間	480 時間	5,460 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			5,940 時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	131人	4人	8人	107人	115人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
(概要) 既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位4分の1の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点 : S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点 : A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点 : B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点 : C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点 : F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準
(概要) 全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
(概要) 本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
担任制度による個別面談、キャリアセンター・デビューセンタースタッフによる進路カ			

ウンセリングや履歴書・プロフィール作成、面接指導、オーディション対策指導・学内合同企業説明会/ADの実施開催等
(主な学修成果(資格・検定等)) J E S C コミュニケーションスキルアップ検定等
(備考) (任意記載事項) 2025年度完成年度となる。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	6人	6.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	デジタルメディア科 (昼間Ⅱ部)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 時間	480 時間	5,460 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			5,940 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		58人	0人	8人	107人	115人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
(概要) 既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位4分の1の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点 : S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点 : A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点 : B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点 : C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点 : F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準
(概要) 全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
(概要) 本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
担任制度による個別面談、キャリアセンター・デビューセンタースタッフによる進路カ			

ウンセリングや履歴書・プロフィール作成、面接指導、オーディション対策指導・学内合同企業説明会/ADの実施開催等
(主な学修成果(資格・検定等)) J E S C コミュニケーションスキルアップ検定等
(備考) (任意記載事項) 2025年度完成年度となる。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	3人	7.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	メディアクリエイト 科（昼間I部）	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 時間	420 時間	3,360 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,780 時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	161人	2人	8人	107人	115人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位4分の1の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点：S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点：A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点：B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点：C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点：F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準
（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
（概要）本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
79人 (100%)	2人 (2.5%)	75人 (95.0%)	2人 (2.5%)
（主な就職、業界等）テレビ番組制作・テレビ番組技術系企業・映像制作会社 コンサート・舞台業界における音響/照明/制作分野及び、映画・ドラマ業界分野映像制作会社を中心に、CG コンポジット系企業			

(就職指導内容) 担任制度による個別面談、キャリアセンタースタッフによる進路カウンセリングや履歴書対策指導・面接/GD対策・学内合同企業説明会の実施開催等
(主な学修成果(資格・検定等)) J P P A映像音響処理技術者資格初級・M O S検定・足場組立作業従事者 JESC コミュニケーションスキルアップ検定等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
169人	3人	1.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	メディアクリエイト 科（昼間Ⅱ部）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 時間	420 時間	3,360 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,780 時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
55人	48人	0人	8人	107人	115人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて、原案を作成のうえ、学校長が決定する。学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明したうえ、本校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位4分の1の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数3分の2以上、評価点数100～90点：S(4.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数89～80点：A(3.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数79～70点：B(2.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数69～60点：C(1.0) 合格 出席時数3分の2以上、評価点数59～0点：F(0.0) 不合格
卒業・進級の認定基準
（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。
学修支援等
（概要）本校ではチュードントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
57人 (100%)	0人 (0%)	53人 (93.0%)	4人 (7.0%)
（主な就職、業界等）テレビ番組制作・テレビ番組技術系企業・映像制作会社 コンサート・舞台業界における音響/照明/制作分野及び、映画・ドラマ業界分野映像制作会社を中心に、CG コンポジット系企業			

(就職指導内容) 担任制度による個別面談、キャリアセンタースタッフによる進路カウンセリングや履歴書対策指導・面接/GD対策・学内合同企業説明会の実施開催等
(主な学修成果(資格・検定等)) J P P A映像音響処理技術者資格初級・M O S検定・足場組立作業従事者 JESC コミュニケーションスキルアップ検定等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92人	5人	5.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補習課題提出 キャリア領域におけるサポートアンケートの実施と検証		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
映像・舞台テクノロジー科 (昼間Ⅱ部)	150,000 円	700,000 円	695,800 円	
俳優本科 (昼間Ⅰ部)	150,000 円	630,000 円	665,800 円	
デジタルメディア科 (昼間Ⅰ部)				
映像・音楽・クリエイター系 デジタルメディア科 (昼間Ⅱ部)	150,000 円	700,000 円	695,800 円	
映像・音楽・クリエイター系 デジタルメディア科 (昼間Ⅰ部)	150,000 円	700,000 円	695,800 円	
デジタルメディア科 (昼間Ⅰ部) タレント系	150,000 円	630,000 円	665,800 円	
デジタルメディア科 (昼間Ⅱ部) タレント系	150,000 円	630,000 円	665,800 円	
メディアクリエイイト科 (昼間Ⅰ部)	150,000 円	700,000 円	695,800 円	
メディアクリエイイト科 (昼間Ⅱ部)	150,000 円	700,000 円	695,800 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/9_evaluation_committee_2024.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者ととも、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行なった自己点検、自己評価の内容を通し、学校運営の改善に活かすことを方針としている。 評価項目は下記の通り。 ・教育理念、目的、人材育成像について・学校運営について・教育活動について ・教育成果について・学生支援について・教育環境について ・学生募集と受け入れについて・財務について・法令の遵守について ・社会貢献の取り組みについて		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
ダンサー・ミュージシャン	2014年4月1日～2026年3月31日 (任期更新)	卒業生代表

在校生保護者	2024年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	保護者代表
元高等学校長	2023年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	高等学校関係者
大阪市北区堀川連合振興町会	2014年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	地域代表
(株)キレイ	2014年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	業界代表
(有)テークワン オーディオ	2019年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	業界代表
サテライト大阪	2014年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	業界代表
(株)セイ	2016年4月1日～2026年3月31日（任期更新）	業界代表
学校関係者評価結果の公表方法 （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.bac.ac.jp/img/school/public_info/9_evaluation_committee_2024.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 学校ホームページ（ https://www.bac.ac.jp/school/public_info/index.html ）またはメインパンフレットおよび学生募集要項の郵送
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310002100
学校名 (〇〇大学 等)	放送芸術学院専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人コミュニケーションアート

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		113人 (0) 人	100人 (0) 人	114人 (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	59人	50人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	30人	27人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				114人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	—	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	—	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	—	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	—	0人	—

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	—	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	0人	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	—	—	—
計	11人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。